

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	ヴォーカリストコース
授業科目	アドバンスレッスン2
必選	選
年次	2年次
実施時期	後期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	Ryuta
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	発声法をマスターし、さまざまなジャンル、スタイルをこなせるヴォーカリストとしての幅を広げます。
到達目標	必要な音高・声種・音量を作るための各筋肉の使い方を知る。そのためには呼吸および喉頭（内喉頭筋・外喉頭筋）・鼻腔・口腔・咽頭の変化が声にどう影響するか知り、各器官をおのおのコントロールできるようにする。ヴォーカルテクニックで学んだ各声の楽曲などを挙げながら分析し、自分のものとしてしっかりと表現しヴォーカリスト、表現者としての技能を体得することを到達目標にしている。
授業方法	個人が生まれながらにして持つ声質を大事にしながら、その声質のいい部分をさらに伸ばしていくグループ形式の授業である。他者の声を聞く事で自分とは何が違うのかを意識させ、より探究心を持ってボイストレーニングを学ぶことを目的とし、共鳴するポジションを各自身に付けた上で様々なトレーニングを行っていく。また、ボイストレーニングの一環で身体の強化、リズムトレーニング等も行う。
成績評価方法	授業内発表70%（課題曲を提示し、アーティストのテクニックを指導、各々確認。個々の成長度で評価する。また知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する。）平常点30%(積極的な授業参加度、授業態度によって評価する)
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	適時、講師より教材を配布する。

授業計画	
第1回	スキルチェック(1) 一人ずつ歌い、各自ヴォイストレーニングでの課題を決めることができる。
第2回	ウォーミングアップ、一年次の復習(1) 腹式呼吸の習得。ハミング、リップロール、舌のストレッチ
第3回	ウォーミングアップ、一年次の復習(2) 声帯の動きや構造を理解し、「地声」「裏声」「ミックスボイス」を耳でもわかる。
第4回	リズムトレーニング(1) メトロノームを使いトレーニングを行い、16ビートを習得する。
第5回	リズムトレーニング(2) 4ビート、8ビート、16ビートの違いを身体を使って習得する。
第6回	歌うために必要な声帯、声帯周りの筋肉の動かし方を学ぶ(1) 主に地声の発声を習得する。
第7回	歌うために必要な声帯、声帯周りの筋肉の動かし方を学ぶ(2) 主に裏声の発声を習得する。
第8回	共鳴、発音 母音と子音の発声上の役割の違いを理解し、発声に活かすことができる。
第9回	音域拡大のメソッドを学ぶ(1) 長期的な声のトレーニング法がわかる。
第10回	音域拡大のメソッドを学ぶ(2) 長期的な声のトレーニング法がわかる。
第11回	音域拡大のメソッドを学ぶ(3) 長期的な声のトレーニング法がわかる。
第12回	ボイストレーニングにおけるスケール練習(1) 音程をしっかりと理解した上で、正しい音程をとることができる。
第13回	ボイストレーニングにおけるスケール練習(2) 1オクターブ半のスケールを使って各度数の間隔を感じながら歌うことができる。
第14回	復習(1) 前期のトレーニングを復習し、ここまでの成果を理解出来る。
第15回	まとめ 前期全体の振り返り

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	ヴォーカリストコース
授業科目	アドバンスレッスン2
必選	選
年次	2年次
実施時期	後期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	Ryuta
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	発声法をマスターし、さまざまなジャンル、スタイルをこなせるヴォーカリストとしての幅を広げます。
到達目標	どんなジャンルでも歌いこなせるような音程のコントロール、ビブラートやしゃくり、フォールダウンなどの基礎的なテクニックの習得する。リズムの取り方や、表現力を養う訓練をする。また、本番環境でも安定した歌を歌えるようなメンタルを養う。
授業方法	効果的なウォーミングアップを行い、技術を習得するために適した課題曲を効果的な順番でトレーニングする。課題曲の学習順番は、演奏法習得状況に応じて弾力的に変更する。技術の習得状況を毎回講師がチェックし、個別最適化された課題を指示する。学生は、講師からもらった技術課題を基に複数の教室に分かれて課題に取り組みながら、順次講師からの技術確認を得るものとする。
成績評価方法	試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(積極的な授業参加度、授業態度によって評価する)
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	適時、講師より教材を配布する。

授業計画	
第1回	課題曲「鱗」を使って、曲のアナライズと目標を設定する。
第2回	課題曲「鱗」を使って、出だし音、フレーズのおさめ方のパターンを学ぶ。
第3回	課題曲「鱗」を使って、ブレスのトレーニング（ブレスの種類、ブレスの位置を学ぶ）
第4回	課題曲「鱗」を使って、声に表情をつけるトレーニング。
第5回	授業内発表
第6回	課題曲「陽のあたる場所」を使って、リズムコントロールのためのリズムトレーニング。
第7回	課題曲「陽のあたる場所」を使って、しゃくり、フォールダウン、エッジボイスの体感する。
第8回	課題曲「陽のあたる場所」を使って、声門アタック、息抜きのテクニックとのトレーニング。
第9回	課題曲「陽のあたる場所」を使って、リズム取りの声門アタックテクニックを学ぶ（アフターで歌う、食い気味に歌う）
第10回	授業内発表
第11回	課題曲「Cry Baby」を使って、曲のアナライズと目標を設定する。
第12回	課題曲「Cry Baby」を使って、ミドルヴォイスからヘッドヴォイスへの切り替え方法を学ぶ。
第13回	課題曲「Cry Baby」を使って、ダイナミクスのコントロールを体得する。
第14回	課題曲「Cry Baby」を使って、前期後期のトレーニングを復習し、ここまでの成果を理解出来る。
第15回	期末試験

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	ヴォーカリストコース
授業科目	アドバンスレッスン2
必選	選
年次	2年次
実施時期	後期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	Ryuta
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	発声法をマスターし、さまざまなジャンル、スタイルをこなせるヴォーカリストとしての幅を広げます。
到達目標	各パートに分かれて表現力豊かに合唱を歌うことができる
授業方法	与えられた楽譜を読み、パートに分かれて練習し、合唱をします
成績評価方法	試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	適時、講師より教材を配布する。

授業計画	
第1回	前期の振り返り
第2回	課題曲の構成確認、パート分け
第3回	発声練習、パートごとに譜読みをする、耳で覚えていく
第4回	発声練習、リズムに気をつけて歌う
第5回	発声練習、パートに分かれて音を確かめ合う
第6回	発声練習、パートごとに歌唱し発表する
第7回	数チームに分かれて練習する
第8回	曲を通して合わせてみる、リズム、ダイナミクスをチームごとに意見を出し合う
第9回	各チームで歌唱発表する
第10回	パフォーマンスを学ぶ
第11回	各チームで分かれて曲に対してのアナライズをさせる、意識してチーム練習
第12回	リズム、ダイナミクス、パフォーマンス全体の確認
第13回	曲を通して合わせてみる
第14回	授業内発表
第15回	まとめ

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	ヴォーカリストコース
授業科目	アドバンスレッスン2
必選	選
年次	2年次
実施時期	後期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	Ryuta
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	発声法をマスターし、さまざまなジャンル、スタイルをこなせるヴォーカリストとしての幅を広げます。
到達目標	幅広いジャンルの課題曲をバンドアンサンブルと共に学習することによって、バンドアンサンブルと合唱をより良くするために考察、周りの音をよく聴きながら歌い、最良の合唱となるためのコミュニケーション能力も体得する。卒業公演でステージに乗ることを目標とする。
授業方法	柔軟かつオリジナルな演奏者を目指すための考察を深める。バンドアンサンブルとのコラボレーションによる共創型課題も適時実施する。
成績評価方法	試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	適時、講師より教材を配布する。

授業計画	
第1回	前期の振り返り
第2回	バンドアンサンブルと共に歌う（前奏、間奏、アウトロー等構成をしっかり覚える）
第3回	バンドアンサンブルと共に歌う（ダイナミクスを意識）
第4回	バンドアンサンブルと共に歌う（スタッカート、タイ、リズムキープ）
第5回	バンドアンサンブルと共に歌う（パフォーマンス）
第6回	バンドアンサンブルと共に歌う（各パートの音も意識する）
第7回	バンドアンサンブルと共に歌う（前奏、間奏、アウトロー等の構成をしっかり覚える）
第8回	バンドアンサンブルと共に歌う（ダイナミクスを意識）
第9回	バンドアンサンブルと共に歌う（スタッカート、タイ、リズムキープ）
第10回	バンドアンサンブルと共に歌う（パフォーマンス）
第11回	バンドアンサンブルと共に歌う（16分のリズムトレーニング）
第12回	バンドアンサンブルと共に歌う（三連符等のハネのリズムトレーニング）
第13回	バンドアンサンブルと共に歌う（リハーサル）
第14回	授業内発表
第15回	全体のまとめ